

コンクリート標準示方書

正誤訂正表

ページ	行	誤	正
14	上12	骨材の絶対比重	骨材の絶対比重
〃	上23	分布されるため	分布させるため
15	上 7	配慮した主鉄筋	配置した主鉄筋
〃	下 9	用いる器具をいう。金属製、…	用いる金属製、…
19	下10	$P_0$ ：柱の許容軸方向荷重	$P_0$ ：柱の最大許容軸方向荷重
21	上 7	許容応力度構造細目等	許容応力度、構造細目等
24	上 8	許容せん断力度	許容せん断応力度
26	図 2	$r$ ：鉄筋の曲げ内半径	$r$ ：鉄筋の曲げ内半径
31	上 2	ひびわれ ができる	ひびわれ がでる
34	下25	特定の解析	特別の解析
35	下 2	断面に越こる	断面に起こる
49	上18~19	用いた実例……をら、	を用いた実例……ら、
50	下 5	土木学会規準	土木学会規準
59	上 5	送中の管内のコンクリート	送中管内にコンクリート
60	上17	2層にわたってコンクリート	2層以上にコンクリート
〃	上23	型わく投入口	型わくに投入口
〃	下 7	少なくするようにコンクリート	少なくするように、コンクリート
61	上11	上部、下部のコンクリート	上層、下層のコンクリート
〃	下16	乾燥および急激な	乾燥、急激な
62	下24	溝をつくるか適当な鋼材	溝を造るか、適当な鋼材
68	下 3	凝結硬化の初期の	凝結硬化初期の
69	下 4	うにこれを行わなければならない	うにしなければならない。
〃	下 3	生じないようにしなけ	生じないようにこれを行なわな
71	上 5	水密について	水密性について
76	下10	JIS A 1004	JIS A 1104
77	上 1	「軽量粗骨材の浮粒率試験方法」	「軽量骨材の浮粒率試験方法」
81	下 5	設計基準強度をもとにして	設計基準強度をもととして
85	上 1	鉄筋のかぶり	鉄筋コンクリートのかぶり
88	下 4	土木学会規準および「プレパッ ド…」	土木学会規準「プレパッ ド…」
91	下14	機器、吹付け、養生等	機器、養生等
92	下 8	計量、練り混ぜた材料	計量し、練り混ぜた材料

ページ	行	誤	正
93	上18	反覆吹付け	反覆して吹付け
97	上15	製造作業	また、製造作業
108	下14,15 行の間	次の定義を追加する。 ファイニッシャー——敷きならされた版用コンクリートを締め、荒仕上げする機械をいう。敷きならされたコンクリートを再度切りならすための装置を前部に備えるものが多い。 スプレッター——舗設現場まで運搬された版用コンクリートを受けて所定の位置ならびに高さに敷きならす機械をいう。	
108	下12,11 行の間	次の定義を追加する。 振動目地切り機——目地材料を挿入するため、まだ固まらない版用コンクリートの上部に幅 10 mm 前後、深さ 70 mm 程度の溝を振動によってつくる機械をいう。	
109	表 1 右	25~60 10~30	25~65 10~35
111	上 4	受けない構造物	受けないコンクリート版
"	表 3	15 — 25~60 —	15 — 30~70 —
115	表 5 (標題)	…の AE コンクリートの最大の 水セメント比 (%)	最大の水セメント比 (%)
118	下16	近は分離した	近に分離した
"	下 6	均等質で密実ですりへりに耐え、	均等質ですりへりに耐え、
119	上17	必要があれば不陸整正を行なう。	必要に応じて不陸整正を行なわなければならない。
"	下 6	シールする部分	注入目地材を注入する部分
131	下 3	混和材料、砂等	混和材料等
198	表 2	比重 2.5 以下	比重 2.5 以上
212	上24	表乾比重 = $\frac{W_s}{W_c \times W_s - W}$	表乾比重 = $\frac{W_s}{W_c - W_s - W}$
352	追加	I-9. コンクリートのブリージング試験方法 (JIS A 1123-57)	

## I-9. コンクリートのブリージング試験方法 (JIS A 1123-1957)

- 適用範囲 この規格は、粗骨材の最大寸法が 50 mm 以下のコンクリートのブリージング試験に適用する。
- 試験用器具
  - 2.1 容器は内面を機械仕上げとした金属製の円筒とし、水密で十分強固なものとする。容器の寸法は内径 25 cm、内高 28.5 cm とする。  
取扱いの便利のためトッ手をつけておく。
  - 2.2 ハカリは感量 50 g のものを用いる。
  - 2.3 メスシリンダーは容量 100 cc のものを用いる。ブリージングによってコンクリート上面にしみ出した水を吸い取るにはピペットまたはスポイトを用いる。
  - 2.4 突き棒は直径 16 mm、長さ 50 cm の丸鋼とし、その先端をにぶくとがらしたものとす。
- 試料 試料とするコンクリートの温度は  $21 \pm 3^\circ\text{C}$  でなければならない。
- 試験
  - 4.1 試験中は室温  $21 \pm 3^\circ\text{C}$  に保つ。
  - 4.2 コンクリートは JIS A 1116 [コンクリートの単位容積重量試験方法および空気量の重量による試験方法 (重量方法)] の 4.1 によって打ち込み<sup>(1)</sup>、 $25 \pm 0.3$  cm の高さになるようにならす。コンクリートの表面は、最小の作業で平滑な面となるように、コテでならす<sup>(2)</sup>。  
注 (1) 各層の突き数は 35 回とする。35 回突いて材料の分離を生ずる見込みのときは約 15 回とする。  
(2) このときあまりコテでならすと水がしみ出してきて試験結果のパラッキが大きくなる。
  - 4.3 試料の表面をコテでならした直後、時刻を記録する。つぎに試料と容器を振動しないような水平な台または床の上におき、適当なふたをする。試験中、水を吸い取るときを除き、つねにふたをしておく。
  - 4.4 記録した最初の時刻から 60 分の間、10 分の間隔で、コンクリート上面にしみ出した水を吸い取る。そののちは、ブリージングが認められなくなるまで、30 分間隔で水を吸い取る。水をとるのを容易にするため、水を吸い取る 2 分前に厚サ約 5 cm のブロックを容器の片側の下にはさんで容器を注意深く傾け、水を吸い取ったのち静かに水平の位置にもどす。吸い取った水はメスシリンダーにうつし、そのたびにたまった水の総量を記録する。
  - 4.5 試験を終ったのち、ただちに容器と試料の重量をはかる<sup>(3)</sup>。  
注 (3) 試料の重量として、吸い取ったブリージングによる水量を加算しなければならない。有害な振動を与えるおそれなければ試料の表面をコテでならした直後に容器と試料の重量をはかってもよい。

## 5. 結果の計算

5.1 結果の計算は 5.2 および 5.3 による。

5.2 ブリージングによる水量の累計されたものの単位面積当りの量（ブリージング量）はつぎの式で計算する。

$$\text{ブリージング量 (cm}^3\text{/cm}^2\text{)} = \frac{V}{A}$$

ここに  $V$ ：最終時まで累計したブリージングによる水量 (cm<sup>3</sup>)

$A$ ：コンクリート上面の面積 (cm<sup>2</sup>)

5.3 ブリージングによる水量の試料の水量に対する百分率（ブリージング率）はつぎの式で計算する。

$$\text{ブリージング率 (\%)} = \frac{B}{C} \times 100$$

ただし 
$$C = \frac{w}{W} \times S$$

ここに  $B$ ：最終時まで累計したブリージングによる水量 (kg)

$C$ ：試料の水量 (kg)

$W$ ：1 m<sup>3</sup> あたりのコンクリート材料の重量の和 (kg)

$w$ ：1 m<sup>3</sup> あたりのコンクリートの水量<sup>(4)</sup> (kg)

$S$ ：試料の重量 (kg)

注(4) 骨材が表面乾燥飽和状態であるとして計算する。

## 6. 報告

6.1 報告にはつぎの事項を記載する。

(1) ブリージング量およびブリージング率。

ただし必要ある場合は時間とそのときまでに累計したブリージングによる水量との間の関係を示す図をえがく。

(2) 試料の温度および試験中の室温。